

駅舎デザインコンセプトに関する要望書の検討

令和3年10月6日

1. 今年度の検討内容・スケジュール

- ・ 第3回委員会での意見を踏まえ、駅舎デザインコンセプトの説明文（修正案）を検討。修正案について、事前に各委員に意見を伺い、駅舎デザインコンセプトの説明文（案）を検討した。→P.4 参照
- ・ 駅舎デザインコンセプトに関する要望書は、今年度末に鉄道・運輸機構へ提出する予定であるため、次回委員会で要望書（案）の議論を行う。

第3回委員会（8/3開催）

○駅舎デザインコンセプトの説明文（素案）の検討

第3回委員会での意見を踏まえた駅舎デザインコンセプトの説明文（修正案）の照会

第4回委員会（10/6開催）

○駅舎デザインコンセプトの説明文（案）の検討・決定

○駅舎デザインコンセプトの附帯意見（素案）の検討

第5回委員会（11月開催予定）

○駅舎デザインコンセプトの附帯意見（案）の検討・決定

○都市施設の検討結果の反映イメージを共有

今年度末に、鉄道・運輸機構へ要望書を提出

2. 第3回委員会での主な意見

■議題：要望書に掲載する、駅舎デザインコンセプト（素案）の説明文について

【主な意見】

○「…地域住民と来訪客の交わりによって新たな賑わいの拠点を生み出していきたい…」に関する意見

- ・文章中の「交わり」は、「融合」の方が良いのでは？
- ・「交流」の方が、語呂が良いのでは？
- ・交流することで、駅利用者の意識が高まるような表現にできないか。交流により、地域をまた訪れたいくなるようなことを表現したい。
- ・地域住民と来訪客が「行き交う」という表現はどうか。
- ・「出会い、成長する」等といった文章ではどうか。
- ・「地域住民と来訪客が出会い、交流を重ね」というのはどうか。
- ・そもそも「賑わいの拠点」で良いのか。

○「…四季ごとに豊かな表情を持つ自然と調和するような駅づくりを目指したい…」に関する意見

- ・自然と調和したという部分について、周囲の自然に駅舎が溶け込むのは無理がある。

○その他の意見

- ・「将来に向けたまちづくりのシンボルである」というようなことも盛り込みたい。

3. 修正案に対する主な意見

■議題：要望書に掲載する、駅舎デザインコンセプトの説明文（修正案）について

【主な意見】

- 「羊蹄の四季の恵み」は、「羊蹄の四季の恵みに導かれ」という文を短くした記憶がある。恵みへの感謝とそれを活かした駅づくりや町づくりが伝わる文にしてはどうか。
- 「世界」という言葉を提案した時、観光客＋倶知安町から他の地域へ移ってしまった人も含めていると説明した。「世界」については、来訪客ではなく、この町を訪れる人々としてはどうか。
- 生活の拠点（ふるさと）は倶知安町ではないが、新幹線でふるさとに帰ってくる人が使う駅でもある。「ふるさと」については、この町に帰ってくる人も含まれるような表現としてはどうか。
- 地域住民（ふるさと）と来訪客（世界）が「一体となって」は、「出会い、行き交うことで、」としてはどうか。出会い：駅舎事体が、住民と来訪者が出会い・交わり新たな発見や成長の場となる（付帯機能やイベント等により）行き交う：交通結節点として多くの人が行き交うことによる駅の賑わいの雰囲気（きわみ）が伝わりつつ、駅周辺への賑わいの広がりも感じる言葉かと思った。
- 「駅周辺を含めた新たなにぎわいの場を創造」とあるが、駅周辺を含んで生み出すのは「にぎわい」であるため、「場」を外してはどうか。
- 地域住民（ふるさと）と来訪客（世界）が「一体となって」は、一緒に創り上げるという意味か。「集う（つどう）ことで、…」としてはどうか。

4. 駅舎デザインコンセプトの説明文書（案）

■ 駅舎デザインコンセプト

羊蹄の四季の恵み

～ふるさとと世界が出会う駅～

■ 要望書に掲載する駅舎デザインコンセプトの説明文（案）

※新たに追加した文言を赤字で示す。

羊蹄山は、豊かな自然に恵まれた羊蹄山麓地域の象徴であり、**四季折々に様々な恵みをもたらしてくれる、地域**住民の心の拠り所ともいえる存在です。「羊蹄の四季の恵み」という言葉には、**羊蹄山や二セコ連峰の恵みに感謝し、四季を通じての自然景観と調和する新駅づくりを目指したいという思い**を込めています。

さらに、先人が**創りあげてきた**この地域に**生活する全ての人々を**「ふるさと」という言葉で、新幹線を利用して世界中から訪れる**人々を**「世界」という言葉でそれぞれ表現し、**様々な文化や価値観を持った人々との交流が生まれ、新駅周辺を含めた新たな賑わいを創りあげたいという思いを**「ふるさとと世界が出会う駅」という言葉で表現しました。



（出典：倶知安町HP, 倶知安町観光地マスタープラン）

5. 駅舎デザインコンセプトの附帯意見の検討

(1) 既存新幹線駅の事例

○北陸新幹線福井駅（2024年開業予定）

附帯意見

- No.1 福井らしさを感じる駅
- No.2 周囲の建物（えちぜん鉄道福井駅・アオッサ）との調和
- No.3 地域産材と伝統的工芸品の活用
- No.4 東大通りのけやきを眺望できる駅
- No.5 ひさしのある、光を採り入れた明るい駅
- No.6 利用者にとって十分な安全が確保できる広々とした駅
- No.7 利用者にとって便利で居心地の良い駅

No.1	歴史（福井を代表する永平寺、一乗谷朝倉氏遺跡）や自然（足羽山、足羽川、九頭竜川）といった福井らしさの風景を感じられる駅とする。	 一乗谷朝倉氏遺跡
No.2	特色ある色のえちぜん鉄道福井駅舎やアオッサ、その他の東口周辺の建物と調和した景観となること。	 えちぜん鉄道福井駅舎イメージ図
No.3	内装には、地域産材である美山スギや笏谷石を使用し、福井の伝統工芸品（越前和紙・越前焼・越前瓦・越前和紙燭）を活用する。	 美山スギのベンチ・笏谷石のサイン
No.4	東大通りのけやきを眺望できる景観を活かしたホームとする。 （新幹線車内からも眺望できるように）	 北陸新幹線上越妙高駅
No.5	福井の冬は、空が低くどんよりして暗い。その為、自然光を採り入れ冬でも明るい駅であること。また、「ひさし」があることにより、駅利用者は、冬の雪や吹雪から濡れないで移動できる。夏には木陰として暑さをしのぐことができる。	 北陸新幹線長野駅
No.6	福井駅は1面2線と大変狭い駅である為、混雑が懸念されるので、円滑な旅客動線を確保すること。	 北陸新幹線富山駅
No.7	福井駅は1面2線と大変狭い駅である為、歩行空間や待合空間を十分に確保すること。	

5. 駅舎デザインコンセプトの附帯意見の検討

○北陸新幹線敦賀駅（2024年開業予定）

<付帯意見>

新幹線駅舎に係る付帯意見として、次のとおり要望します。

- ・風景の邪魔にならず、かつ特徴的なデザインの駅舎
- ・敦賀駅交流施設オルパークの後ろに新幹線駅舎ができることへの配慮
- ・新幹線駅舎の高さによる威圧感を抑えたデザイン
- ・新幹線ホームから市街地へ出るまでの連絡通路の活用（敦賀の港の歴史等を感じさせるような演出）
- ・敦賀をアピールできるような、コンコース（中央広場）のデザイン
- ・過ごしやすい快適で利用しやすい駅舎（夏は涼しく、冬は暖かく）
- ・ホームや通路から敦賀の街を眺められる工夫（ガラスや透明パネルの活用）
- ・内装等には天然木材等の活用を検討（地域資源の活用）

市民の意見を最大限取り入れた新幹線駅舎となるよう、施設や機能について協議及び調整をお願いします。



（出典：敦賀市HP）

○北陸新幹線越前たけふ駅（2024年開業予定）

『 伝統・文化を未来につなぐシンボルとしての駅 』

越前国府1,300年の歴史に育まれた文化や古代伝説の時代から継承と創造を繰り返す匠の技といった、市及び丹南地域特有の伝統・文化を生かした、他では真似のできないシンボルとなるデザインとするとともに、コウノトリが舞う里や周囲の豊かな自然に溶け込み、駅周辺整備のコンセプトに調和した、シンボル性を備えながらも趣のあるデザインとします。

- ① 地域の特色を感じる顔となるデザイン
- ② 地域に長く大事にされる親しみのあるデザイン
- ③ 周囲の環境に調和した趣のあるデザイン
- ④ 越前和紙等の丹南地域の伝統産業を表現するスペースの設置
- ⑤ 光を取り入れた開放的な雰囲気の醸成

附帯意見

（出典：越前市HP）

5. 駅舎デザインコンセプトの附帯意見の検討

(2) 倶知安駅の駅舎デザインコンセプトの附帯意見（素案）

デザインコンセプトの説明文書

※P.4に示した説明文(案)を掲載

羊蹄山は、豊かな自然に恵まれた羊蹄山麓地域の象徴であり、四季折々に様々な恵みをもたらしてくれる、地域住民の心の拠り所ともいえる存在です。「羊蹄の四季の恵み」という言葉には、羊蹄山や二セコ連峰の恵みに感謝し、四季を通じての自然景観と調和する新駅づくりを目指したいという思いを込めています。

さらに、先人が創りあげてきたこの地域に生活する全ての人々を「ふるさと」という言葉で、新幹線を利用して世界中から訪れる人々を「世界」という言葉でそれぞれ表現し、様々な文化や価値観を持った人々との交流が生まれ、新駅周辺を含めた新たな賑わいを創りあげたいという思いを「ふるさとと世界が出会う駅」という言葉で表現しました。

附帯意見（素案）

自然景観と調和する新駅づくり

- ①羊蹄山を眺望できる駅
- ②四季を感じられる駅
- ③地元産材の活用

ふるさとと世界が出会う駅づくり

- ④駅を降り立った時に、地域の賑わいを感じられる駅
- ⑤駅前通りの景観との調和
- ⑥荷物の多いインバウンド客への配慮

①羊蹄山を眺望できる駅



北陸新幹線 上越妙高駅

都市施設に整備された展望デッキ「光のテラス」からは妙高連山を望むことができる。

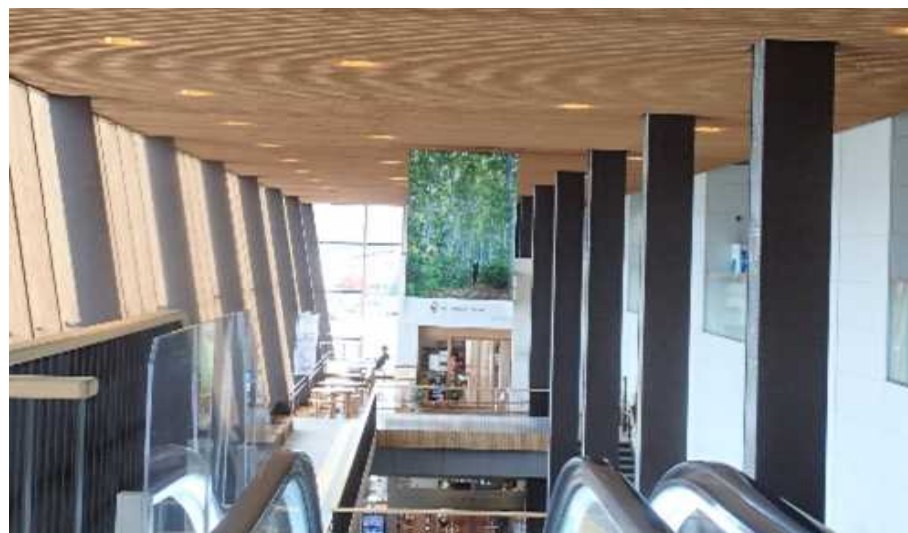


(出典：海の見える駅HP)

山陽新幹線 徳山駅

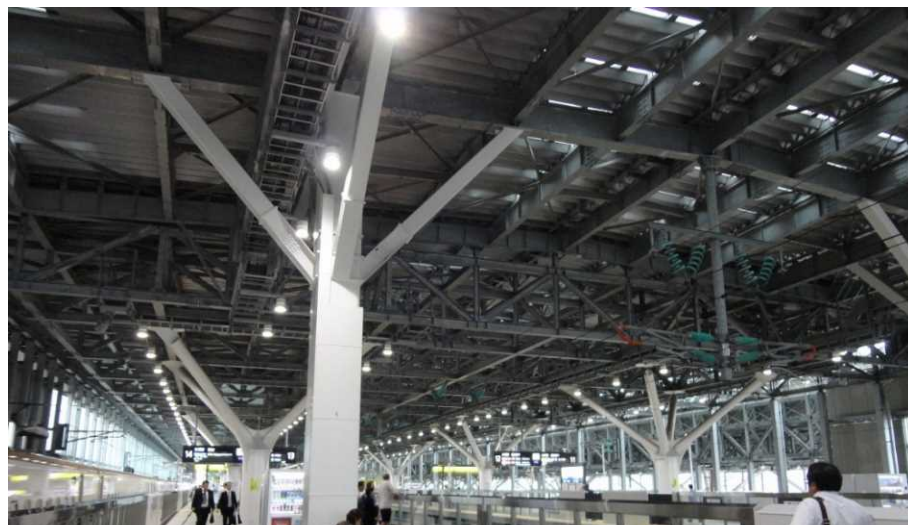
日本でも数少ない海の見える新幹線の駅。
ホームのガラス越しから、瀬戸内海を眺望できる。

②四季を感じられる駅



北陸新幹線 飯山駅

都市施設内に四季を感じられるタペストリーを設置。



北陸新幹線 富山駅

富山駅のデザインイメージ「静謐な雪にたたずむ木立の駅」を表すために、雪の立山杉の木立をイメージした四つ又柱を使用。白色に塗装し、雪の中の立山杉を見立てている。

③地元産材の活用



北陸新幹線 上越妙高駅

新潟県産のスギを活用した新幹線駅の整備。駅を降り立った人に、“暖かさ”を感じてもらえるよう意図された。



北陸新幹線 飯山駅

北信州産のスギを駅舎整備に活用。駅舎内での温もり演出に繋がっている。

④駅を降り立った時に、地域の賑わいを感じられる駅



北陸新幹線 富山駅

新幹線改札周辺をイベントスペースとして活用。



(出典：JR西日本 ニュースプレス)

山陽新幹線 広島駅

JR広島駅北口（新幹線口）1Fのフリースペースを使って、月1回の野菜や果物等を集めた「みのりみのるマルシェ」を開催。

⑤ 駅前通りの景観との調和



駅前通りにおける景観づくり方針(案)

歩く楽しみを感じて集まり にぎわい広がる駅前通り

- **安全・安心で分かりやすい歩行空間の確保**
 - ・ 楽しく歩いて巡れるよう、四季を通じた安全・安心な歩行空間を確保。
 - ・ 各通りと駅前通りの結節点を中心に、通り名や案内サインの設置による人々の誘導。
- **空への広がりのある明るい道路空間の確保**
 - ・ 圧迫感の少ない現在のまちなみを活かし、中高層（４階以上）の建物はセットバックさせ、スカイラインを確保。
 - ・ 空への開放感を創出する無電柱化の検討。
- **歩行を促す賑わいがあり居心地の良い空間づくり**
 - ・ 緑や花、ベンチ、オープンカフェ等の設置による人を呼込む店構えに配慮。
 - ・ 建物の低層部は市民の日常生活に対応した用途を誘導し、良好な歩行空間を創出する形態や意匠、緑化に配慮。
 - ・ 建物の出入口は可能な限り駅前通りに面することで、賑わいや個性の外へのにじみ出しを創出。
 - ・ 駐車場は可能な限り駅前通り側に設けず、やむを得ない場合は緑化などで修景に配慮。
- **統一感のある街並みづくり**
 - ・ 屋外広告物は形状や色彩、取り付け方に配慮し統一感のある街並みを創出。

(出典：倶知安町 第6回市街地景観検討部会資料)

⑥ 荷物の多いインバウンド客への配慮



上越新幹線 越後湯沢駅

スキーも入る大型コインロッカーの設置。